



●Tackle Guide
ハリスは3~4号8メートルが標準だが、ワラサなどがある場合は4号が無難。またサルカン4号前後をハリから2~3メートルの位置に介して、異なる太さのハリスをつなぐテーパーハリスにするると誘いの効果が上がる場合もあるので状況で試していただきたい。

かけてきたので、「無理はしないでください」と答える。仕掛けはハリス4号とこのとで無理は禁物。巻いては出され、出しては巻いての攻防の末、無事タモに収まったのは4キロのワラサ。「あり疲れた」と、深く息を吐きながら笑顔を浮かべる渡部さん。「こっちもワラサだなあー」続いてヒットさせたのは右胴の間の和田さん。慣れたヤリトリで取り込んだのは45キロ

ここで私も竿を出すことに。コマセで大事なことは、ドラッグ調節と正確なタナ取り、そしてコマセを出しすぎない

デカイのきたぞ!

「急に水温が下がったし、潮が澄みすぎて明るくなって、マダイが警戒しているのかなあー」と首をひねった。

船長に様子を聞くと、「急いで水温が下がったし、潮が澄みすぎて明るくなって、マダイが警戒しているのかなあー」と首をひねった。ロの丸まる太ったワラサだ。さらに左ミヨシの百瀬さんが「何かきたみたいだけど...」と巻き上げ開始。マダイかも...と海面をのぞいていると、ポツカリ浮かび上がったのは45センチのマダイ。「本命ではないけど、このサイズはうれしいね」と百瀬さんは頬を緩める。順調そうに思えたが、その後バツタリとアタリが途絶えてしまう。

▼ワラサは4キロ前後がアベレージ



この3点。仕掛けを回収する際にドラッグを締めるが、うっかりそのままの状態のアタリを待つと、突然の突っ込みに対応が遅れてハリス切れすることも。タナ取りは道糸で見る習慣をつけて、コマセはパラパラと出る程度にコマセカゴの窓を調節する。当日のようにマダイの食いが渋い状況の対応としては、ハリスを細くする、長くのばす、ハリを小さくするなどの方法がある。しかしこの日はワラサが回避していたので、

オマツリやハリス切れを軽減するため標準仕掛けの4号8メートルとした。コマセを振って指示タナに合わせた後、しばらくしたらジリジリと3メートルほど巻き上げ、再びゆっくり指示タナまで落とし込んで誘う。しかし、積極的にあの手この手で果敢に誘いを入れる釣り人も楽しいが、船上から優雅に富士山を眺めながらアタリを辛抱強く待つ釣り人も楽しいもの。このどちらにも共通しているのが、日常の喧騒を忘れて心のリフレッシュができる点ではないだろうか。静かな時間が流れていると、突然右トモの大沼さんがアタリをとらえた。「これはワラサみたいですね」と竿を深く曲げてヤリトリしながら、徐々に浮かせてタモに収まったのは4キロのワラサ。続けて右胴の間の和田さんにアタリ。こちらもかなり抵抗しているが、どうやら本命のマダイらしく、みんなの熱い視線を一身に浴びていたのだ。途途中でオマツリしてあえなくハリス切れ。「あー、間違いなく良型

●船宿information

三浦半島葉山芝崎港
福栄丸
☎090・1997・5698
(詳細は巻末の情報欄参照)



矢島 雄三 船長

▶料金=マダイ五目乗合一人1万円(コマセ、水付き)
▶備考=予約乗合。5時半集合、6時半出船。
無料駐車場あり

のマダイだったのに」と船長もガツカリ。そしてラスト1投となり、皆さん片付けを始めたところで右ミヨシ3番の江口さんが最後の最後に食わせた。釣り上げたのは1キロ級のマダイ。速く巻き上げたので目が飛び出してしまったのはご愛敬として、ラストに本命で有終の美を飾ってくれた。当日は潮が澄んでしまったことと、急な水温低下の影響で今一つの結果に終わったものの、次の出船では5.1キロ、4キロ、3.5キロ、3キロ、2.8キロと大型ぞろいでもトップ4枚が2名と復調の兆しを見せられている。正月用の祝い鯛を求めて、皆さんも出かけてみてはいかがだろうか。



▲当日最大は1キロ級にとどまったが、鎌倉沖の深場には3~5キロ級の大ダイが潜む

▼引きの強い魚がヒットしたらドラッグを効かせて慎重にヤリトリしよう



気が付けば今年も残りわずか。そろそろ正月の支度も考えなくては。正月と言えど欠かせないのが祝い鯛。釣り人ならば自分で釣ったマダイで新年を祝いたいものだ。そこで今回は様子見で三浦半島葉山芝崎・福栄丸のマダイ五目へ11月下旬に出かけた。このところの同船の釣況は、数こそ控えめながら2~3キロのマダイがコンスタントに上がっており、それにワラサやアマダイなどのゲストが登場している。

ボイントの鎌倉沖に30分ほど到着すると、さっそく矢島船長から、「タナは87メートルです。始めてください」と開始の合図が出た。同宿は海面からのタナ取り

三浦半島葉山芝崎港 鎌倉沖
大ダイの期待高まる深場攻め
相模湾で祝い鯛をこの手に!

本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshitaka Suzuki

となっており、指示タナ+ハリスの長さの半分まで下ろしたら、仕掛けが潮になじむまで8~10秒ほど待った後、コマセを振りながら誘い上げてタナに合わせる。ちなみに、この水深は95メートルだから、おおむねコマセカゴが海底から8メートルの位置にあることになる。さて、早朝の好時合、モーターを置かず、右トモの大沼さんが「こっちにもきましてよおー」と言ってフアイト開始。引き込みからして2キロはありそうに見えたのだが、20メートルほど巻き上げたところで「ありー」と悲痛な声を上げた。痛恨のスッポ抜け、肩を落として残念がっている。しばらくすると左胴の間の渡部さんにヒット。大きくしなる竿を両手で支え、重い、重いと思死に耐えながら、

知得! マダイのウロコ取り
Tips and Tricks

マダイの下処理で最初にするのがウロコ取り。ウロコ取り器でやってもあちらこちらに飛び散って掃除が大変。そこで私がやっているのが、大型のクーラーボックスにたっぷり水を張った中にマダイを沈めてウロコを取る方法。ウロコは一切飛ばず、掃除も楽ちんだ。

▲この時期のマダイは脂が乗り食味も最高



●すずき よしかず「このごろ階段でつまずくようになったわ」と言われ「俺はお前と結婚したのがつまずきの始まりだ」と言ったらひどい目に.....